

創立120周年で材料ラッシュ

増額、優待、猶予・重要事象解消…

ダイトウボウ(3202)の株価は7月安値55円を大底に順調な下値切り上げ型波動を形成中。8月末には、時価総額不足に「2部指定替え猶予期間」も解除された。もともと日経平均にも採用されていた名門企業ながら、近年は株価2ケタが常態化し、仕手株扱いに甘んじてきた。ところが、今月の社名変更(旧社名は大東紡織)に合わせるかのように、収益増額、継続企業重要事象解消、eコマース(電子商取引)事業参入、株主優待導入と、文字通りニュースラッシュの横相を呈し、企業イメージも変貌(ほう)を遂げようとしている。代表取締役の山内一裕氏(写真)に、変化の背景や今後の経営戦略などについて話を聞いた。



代表取締役社長
山内 一裕氏

トップインタビュー

ダイトウボウ

「まずは2部指定替え猶予期間解消おめでたいですね。1月の重要性的にも身に染みて感じます。」

「最近のニュースリリース発行は、両あられのラッシュ状態だった。」

「ない。いわば、リーグ戦とトーナメント戦の同時進行のようなもの。達成できてホッとしている。解消にも2ケ月を要するとは思わなかったが、長引いたことでかえって、いろいろなお話が研究でき、株主の方へのアプローチの重要性も身に染みて感じます。」

変化の背景を聞く

「各種の経営施策や株主還元策の多くは、将来を見据えて、1年以上温めてきたアイデアだ。『猶予期間』とは関係なく、創立120周年のタイミングで発表が集中する形となった。といっても、まず6月7日に120周年記念優待(9月末割り当て)を発表した時点では、普通優待(毎年3月末、まで発表できるとは思っていない)だった。第1、第2四半期は赤字を想定していたためだ。」

「8月10日に増額修正発表した要因は何か。」

「今期の前半に赤字を見込んでいたのは、シンジケートローン実行に伴う諸費用発生など、一過性の要因が背景だが、想定より圧縮されたこと。そして、それ以上に、昨年の繊維・アパレル事業改革による紳士服販売子会社清算の収益効果顕在化が大きかった。」

「40年来のスーツ事業撤退は思い切った改革だが、ほかにあるのか。」

「今年、社長として初めて株主総会に臨んだこともあり、社内を一新に変えた。例えば、80年ぶりの商号変更、10年ぶりの本社移転、20年ぶりのシンボルマーク制定、40年ぶりの監査法人変更。監査等委員会設置設置会社に移行し、ストックオプションも導入。株主総会にお土産を用意したのも初めて。細かい点も含めれば、9月から、25年ぶりに就業時間を30分間繰り上げ、働き方改革をすすめていくなど、数え上げたらキリがないほどだ。」

「9月末割り当ての記念優待(カタログギフト)は1000株主の26000円分(利回り換算で3.5%)から、3万円(以上の)株主の5万6000円分(同2.5%)まで細かく設定されている。」

「当社の2大部門で、商業施設の拡充や、ヘルスケアの提携戦略など、やるべきことは多い。今次の中期経営計画を今・来期の2年間としたのは、ツナギの意味合い。次は、5年間といった長期的なもので、新しい方向性など本格的なものを盛り込んでいきたい。」

「復配についても。」

「まだ少なからぬ繰越損失を残すため、はっきりしたことはいえないが、できるだけ早く実現したいという気持ちは持ち続けている。」